



▲短期留学した4人がホーク元首相と再会。保護者らと一緒に親睦を深め、ホーク氏との貴重な思い出を胸に留め、植樹式典に参加しました

◀ホーク元首相(左)とジャガランダを植樹するオニザキコーポレーションの金丸美智夫代表取締役社長(右から2人目)と三谷直男取締役(右)、横尾市長

友好の証を心に刻みほつこ

ジャガランダ植樹記念式典

6月8日、中央公園で“豪州の桜”と呼ばれるジャガランダの記念植樹を行いました。

オーストラリアの「ボブ・ホークスカラシップ財団」から苗木30本が寄贈されたもので、同財団と株式会社オニザキコーポレーションの援助で市内の中学生をシドニーへ短期留学させているのが縁。主宰者で23代目のオーストラリア元首相でもあるボブ・ホーク氏も来日され、関係者約50人が参加した中、ホーク氏は「共通の価値観をもとに自国のよりよき国民となるだけでなく、世界を担う世界市民として育つことが肝要。若い人達の交流に貢献するため活動を展開しています。満開に咲いたジャガランダを友好の証として心に刻んでほしい」と話され、心のこもった歓迎に感謝されていました。

ジャガランダは生長すると15~20m近くなり、薄紫色の花を5~6月頃に咲かせるそうで、中央公園に7本、残りは市役所や市内の小中学校で育てられています。

甘くて、上品な初夏の味 ピワ

『佐賀ピワ』として関東市場へ出荷

初夏を告げる上品でジューシーな甘さのピワが6月5日から約2週間、市内から出荷されました。中でも東多久町納所地区は、100年以上の歴史がある県内の産地。「茂木」種を中心に、現在は85戸が栽培されています。

田淵芳次さんもその一人で、栽培暦50年以上のベテラン。袋掛けで風傷や害虫から大切に守り、適期となった果実を見極めながら収穫し、選別、パック詰め、出荷と丁寧な作業を続けました。田淵さんは「旬が薄れつつあるものの中で、私たちが生産するピワは貴重な旬の味。体を大切に楽しみながら伝統を守りたい」と話され、毎年駆けつける親戚の応援を受けて出荷作業を進め、久しぶりの親睦も楽しまれていました。

南多久町や西多久町の一部でも栽培される多久のピワは『佐賀ピワ』として、関東市場へ出荷されました。



▲袋に守られ大事に育てたピワを収穫する田淵さん

お疲れ様でした。

ふるさと美化活動

県下一斉「ふるさと美化活動」が行われ、道路や河川などに捨てられたゴミ約3tが回収されました。この活動には、各自治会や婦人会が呼びかけに、4,500人を超す市民が参加。この日を含め、前後2週間に市内各地区で行われ、「自分の住むところは自分からきれいに！」と熱心に活動されました。美しいまち「多久」をみなさんと創っていきましょう。



5/31

メモリアル会館和光がベンチ10脚を市に寄贈

「市民のみなさんのために役立ててほしい」と、メモリアル会館和光(眞崎省三社長)が、屋外用ベンチ10脚(約45万円相当)を市に寄贈。中央公民館で贈呈式が行われ、川内丸信吾館長が眞崎久司専務に「大切に使用させていただきます」とお礼状を手渡しました。

同社は2年間にもベンチを寄贈されており、鮮やかなブルーのプラスチック製ベンチは、市内の各公民館や公園などで活用します。

5/22

